

トンバトウ郡, トンサワン村における トンサワン語の選択

平 林 輝 雄

I. はじめに

トンバトウ郡 (Kecamatan Tombatu) は、インドネシア共和国、北スラウェシ州のミナハサ県下 (Kabupaten Minahasa) における35郡のうちの一つの郡であり、州都メナド市 (Kota Madya Manado) の南南西の方角に約90km離れた場所に位置する。土地の言語はトンサワン語 (Bahasa Tonsawang) である。ただし、トンバトウ郡の26におよぶ村落 (desa) のうち、一部の村ではトンテンボアン語 (Bahasa Tontemboan) やポノサカン語 (Bahasa Ponosakan) が土地のことばとして話される。

ミナハサ地方では、英国の博物学者 A.R. ウォレス (1989: 269) が記録しているように、「マレー語」が異なった民族集団間の意思疎通を可能にする域内共通語の役割を果たしてきた。ウォレスはミナハサの言語的多様性に注目し、宣教師によって「マレー語」がもたらされる以前は、村落ごとに異なった言語が話されていたために、おたがいに意思の疎通が困難であったのではないかと推測している。現在メナド・マレー語 (Bahasa Melayu Manado) と呼ばれるこのマレー語の一変種がおたがいに通じない地方語 (regional vernaculars) を補うリングフランカとして広く通用していたと考えられる。

ウォレスの観察から140年余りたった現在、ミナハサ地方では日常生活において、それぞれの地方語に代わってメナド・マレー語を常用する住民が年代を問わず増えていて、都市部の若い世代を中心にこれを母語として育った者も少なくないといわれる。彼らにとっては、メナド・マレー語によって日常生活の様々な領域における意思の疎通が充分可能であり、さらに抽象的概念を表現することも可能である。またメナド市を中心に、ミナハサ地方の複数の FM 放送局で電話リクエスト番組が放送されているが、ディスクジョッキーと聴取者とのやりとりはメナド・マレー語によって行われることが普通である。聴取者のメナド・マレー語運用能力はまちまちであるがメナド・マレー語のクリオール化が着実に進んでいることが実感される。

異なった地方語を話す人々間の意思の疎通においては、メナド・マレー語に加えて、インドネシア共和国の国語・公用語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) が用いられ、これらふたつのコードが使い分けられることが多い。一方、地方語は地域によっては使用されることはかなり少なくなりつつある。この傾向はメナド市に近づくにつれてより強くなることが確認される。地方語はその衰退が加速度的に進んでいて、北スラウェシ州奥地のみならず、遠くスラウェシ島中央部の多

くの地域にまで及んでいるといわれるメナド・マレー語とは対照的に、その使用範囲がメナド・マレー語によって蚕食され、近い将来消滅する可能性がある」と指摘される (Tallei 1976; 1995)。

これに対して、メナド市から離れ、ミナハサ地方の比較的奥部に位置するトンバトウ郡においては、ミナハサ県下の他の地方に比べて、地方語であるトンサワン語の使用は現在のところ比較的優位な状態にあることが確認される。筆者が2000年7月から8月にかけてメナド市内、およびミナハサ県下、トンダノ郡、トンセア郡、トンバシアン郡、ピネレン郡、およびトンバトウ郡において実施したフィールド調査の結果によると、若者が最も流暢に話す言語は、カリ村を除いた調査地域で断然メナド・マレー語であり、いずれの調査地域においてもそれぞれの地方語の使用は限定的であった。一方、カリ村においては地方語であるトンサワン語の多用が確認された。

筆者がトンバトウ郡庁周辺において行なった現地調査 (平林 2000) の結果によっても確認されるように、トンバトウ郡においても若い世代を中心にメナド・マレー語の使用が広がりつつあるが、領域 (domains)、すなわち同じコードあるいはサブコードが常用される人間の活動の場によっては地方語の使用がいまだに顕著に認められる。ただし地域によっては若い世代の地方語使用能力は非常に限られており、異世代間のコミュニケーションにおいてはトンサワン語単独によって意思の疎通をはかることはもはや困難な状態となっている。トンサワン語もミナハサ地方の他のいくつかの地方語と同様、次第に母語としての勢いを失い、いくつかのコード使用領域において徐々に使われなくなりつつあることが判明した。このため異世代

間のコミュニケーション不全という問題を抱え、次第に複数のコード/サブコードの混用に頼らざるをえなくなりつつあるのが現状である。

Ferguson (1959) は二つの言語あるいは言語変種が併存し、異なった役割を分担している状態をダイグロシヤ (diglossia) とよんだ。世界の国々の中には三つ以上の言語変種を使う多言語国家も多いが、このような状態は Platt (1977) によってポリグロシヤ (poliglossia) とよばれる。Platt はポリグロシヤという概念を援用して、多民族・多言語国家であるシンガポールやマレーシアの言語環境をマルチリンガリズム (multilingualism) およびポリグロシヤの状態にあると考えた。

社会生活に関わる様々な領域で三つ以上の系統を同じくする言語変種が役割によって使い分けられているミナハサの言語状況を、同様にバイリンガリズムあるいはマルチリンガリズムなしのポリグロシヤとよぶことが妥当である。ミナハサ地方ではインドネシア語、メナド・マレー語および地方語のなかから領域ごとに使用するにふさわしいコード/サブコードを選んだり、切り替えているのである。1945年にインドネシア共和国憲法で公用語とすることが規定されたインドネシア語はほとんどの児童、生徒にとって学校教育において習得する言語であって、学術、科学技術、政治経済、あるいは公人としての活動の場で使われるフォーマルなことばである。インドネシア語はまた唯一の国語として語彙の標準化、文法の整備が国家によって行なわれ国家の管理の下に置かれている。

一方、メナド・マレー語および地方語はフォーマルではない領域で用いられる。メナド・マレー語は、アンボン・マレー語、テルナテ・マレー語などと同様に接触言語として域内、域外との交易、

トンバトウ郡、トンサワン村におけるトンサワン語の選択

通商に広く使われてきた。現在、メナド・マレー語の使用は、メナド市およびその後背地ミナハサ地方、北スラウェシ州、中スラウェシ州にまで及び、異なった民族集団の間の意思の疎通のために広く使われている。

これに対し、地方語は土地の文化と密接な関係を持ち、家族や友人などとの私的な人間関係や、伝統文化にかかわるところで使われるが、メナド・マレー語に比べてミナハサ地方の多くの郡で使用されることが少なくなりつつあるのが現状である。

本稿では、トンバトウ郡庁周辺におけるフィールド調査(平林 2000)に続いて、より奥地に入った人口1,296人の小規模な山あいの村落、トンサワン村に居住する人たちに対して、トンサワン語の使用について聞き取り調査を行ない、トンサワン語社会のなかでのトンサワン語の使用実態を明らかにする。すなわち、トンサワン語がトンサワン語コミュニティ住民によってどのような場面で選ばれ、いかに使用されているのかを明らかにするために、住民の主たる生活、活動の場であるいくつかの領域ごとに下位領域(sub-domains)を設定する。家族、交わり、公の場、感情、精神思考、売り買いにかかわる下位領域ごとにトンサワン語話者によって選択されるコードを世代ごとに明らかにし、さらにトンサワン語、インドネシア語およびメナド・マレー語の間でのコードの選択、あるいはひと続きの発話の中でコードを混ぜて使用するコードの混用がどのように行なわれているのか、またそのパターンが年齢階層によってどのように異なるかを明らかにする。

II. トンバトウ郡、トンサワン村

北スラウェシ州、ミナハサ県、トンバトウ郡、トンサワン村(Desa Tonsawang)は、州都メナドからおよそ90km、自動車で約3時間弱走って、トンバトウ郡庁の5kmほど手前にあるムンドウン村(Desa Mundang)で山道に分け入る。急坂を徒歩で登ること約10km、約3時間でトンサワン村に到着する。街道から村へいたる山道は長年にわたって補修工事がなされないまま放置され、雨がふれば一面ぬかるみとなる。生活物資は人力あるいは牛に引かせた二輪車によって運ぶ。交通が不便であるために外界との人の交流は限られている。住民はこの土地で生まれた者がほとんどであり、その多くがこの山間の村で一生を送る。もともと山すそに住む住民たちが山の中腹に畑を開き、農具を保管したり、農作業の間休憩をとるために建てた小屋が、現在の村に発展したと伝えられる。住民のほとんどが農民で早朝から午後まで田畑で働き、丁子、椰子の実、野菜、米、コーヒーを栽培し、椰子酒、砂糖をつくる。

住民がトンバトウへ下りて行くのは定期市のたつ月曜日、水曜日、土曜日のいずれかの日である。椰子酒や農産物を売り生活に必要な物資を手に入れる。10代で所帯を持つ住民が多く、結婚後は家族とは独立し、別の家屋に居住するため三世代同居は珍しい。

調査中は村長(Hukum Tua)宅に滞在した。1998年の人口調査によればトンサワン村には93歳を最年長に1,296人、292世帯が住む。村の行政は選挙によって選出された村長によって行なわれ、複数の区長(Kepala Dusun)がこれを補佐する。村には電話がなく、トンバトウ郡庁をはじめ外部

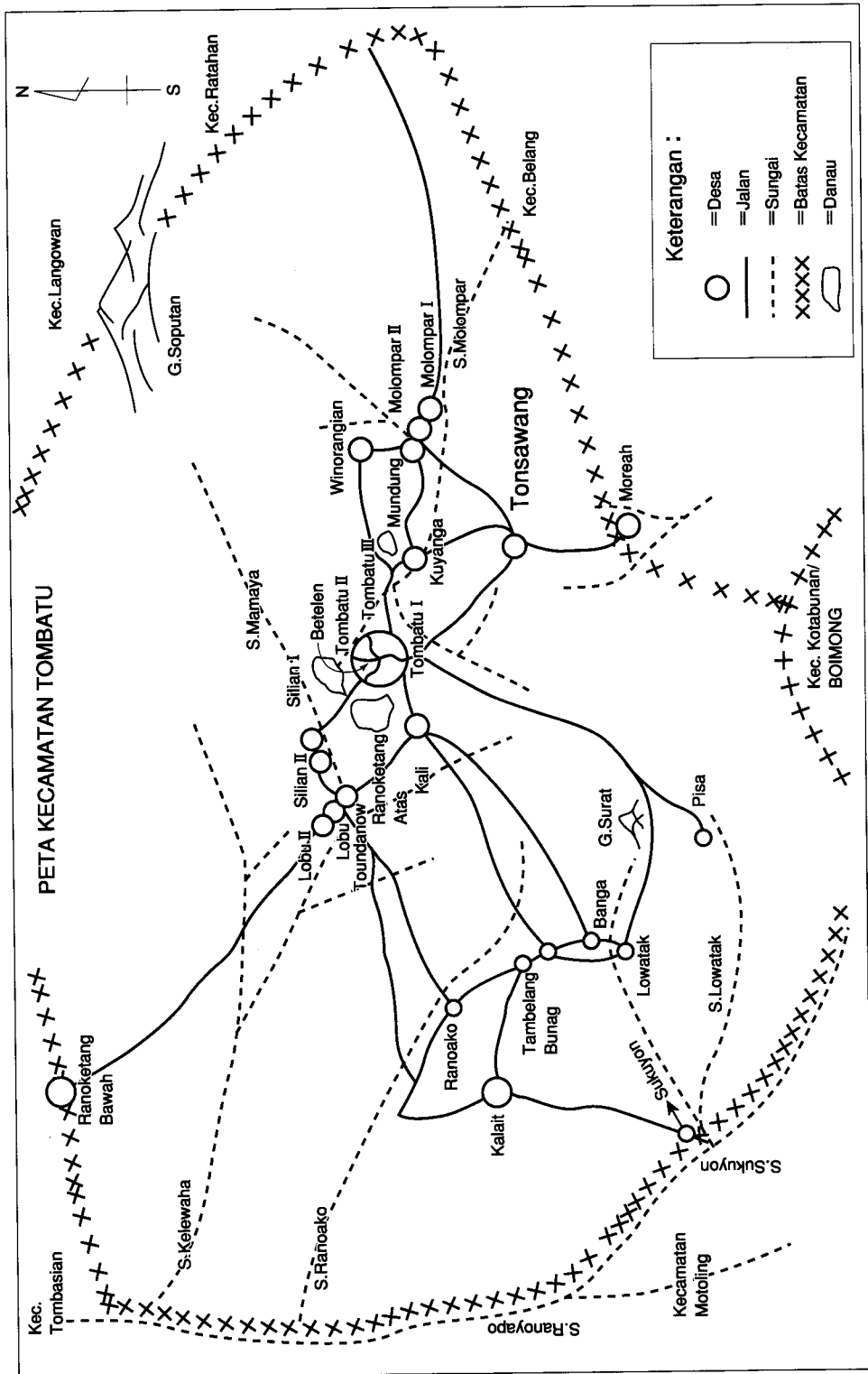


図1 トンサワン郡地図
出所 トンバウト郡庁作成を一部修正

トンバトウ郡、トンサワン村におけるトンサワン語の選択

との通信は、唯一村長に貸与されているトランシパーに頼るしかない。村の中には小学校が2校あるが、中学校と高等学校へはトンバトウ、ムンドウン、モロンパル (Desa Molompar) の学校へ寄宿したり、下宿をして通うことになる。小学校へはほぼ全員が就学するが、中学校、高等学校への最近の就学率はそれぞれ80%、25%程度である。ただし、中退者が相当多く、卒業に至らない者が多い。

Ⅲ. トンバトウ郡およびトンサワン村における言語の概況

ミナハサ県で話される8つの民族語はオーストロネシア語族、インドネシア語派に属する。域内のエスニック・グループによって使用される主な言語は、タナワンコ、トモホンで話されるトムブル語 (Bahasa Tombulu)、トンダノ湖周辺のトゥロール語 (Bahasa Toulour)、トンバトウで用いられるトンサワン語、アイルマデイデイやマウンビで話されるトンセア語 (Bahasa Tonsea)、ソングーからモトリン、トンパソバルーで用いられるトンテンポアン語、ラタハンのパサン語 (Bahasa Pasan)、およびバンティック語 (Bahasa Bantik)、ポノサカン語である。ただしトゥロール語はトンダノ語 (Bahasa Tondano) とも呼ばれる。

ミナハサ祖語 (Proto-Minahasan) の再構を試みた Sneddon (1978: 2-3) によれば、これらの8つのミナハサ諸語のうちパサン語、ポノサカン語およびバンティック語はミナハサ地方の外部で話される言語とより近い関係がある。これに対してトンサワン語、トンセア語、トムブル語、トゥロー

ル語、およびトンテンポアン語の5つの言語はおたがいにより密接な関係にあり、それゆえに、かつてミナハサ地方で話されていた共通の祖語から派生した可能性があると考えている。Sneddon (pp.8-10) はこれら5つの言語の共通祖語であるミナハサ祖語の再構を試みるために基本語彙を比較した結果、これら5つの言語が間違いなくミナハサ祖語を祖語とするが、このうちトンサワン語のみが北ミナハサ祖語 (Proto-North Minahasan) と総称される他の4つの言語と比べてより少ない同一語源の語彙を持つと述べている。

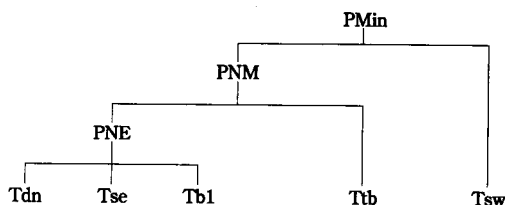


図2 ミナハサ祖語

出所 Sneddon (1978: 9) より転載

図2において、PMin, PNM, PNE はそれぞれ Proto-Minahasan, Proto-North-Minahasan, Proto-North-East-Minahasan を示す。

Proto-Minahasan を祖語とするこれら5つの言語の中で、トンセア語、トムブル語およびトゥロール語は、オランダ人やインドネシア人研究者によって調査研究され、研究成果が比較的多く報告されている。しかし、使用人口の少ないトンサワン語については、植民地時代のオランダ人による調査は単発的な研究に止まり、組織的、網羅的、継続的な研究成果は現在までほとんど確認されていない。ミナハサ祖語の再構を試みた Sneddon (1978: 5-6) がトンサワン語について簡単に言及している以外に、スラウェシの言語の研究成果を

概観した Noorduyn (1991 : 46) がトンサワン語が南ミナハサ地方の山間僻地の12ほどの村落で使用されている比較的使用人口の比較的小さい言語であると、ごく簡単に報告するに止まっている。ただし、小規模ではあるが地元のインドネシア人研究者によるこの言語の記述がいくつか確認される。たとえば、Salea-Warouw et al. (1983) は現地調査によってトンサワン語の音韻、形態、および統語法の簡潔な記述を行なった。また Rorong (1998) はトンバトウにおいて病気に関するトンサワン語語彙を採集し報告した。また、トンバトウ郡の居住者である Kalangi 氏は在野研究者として長年にわたってトンサワン語の語彙の採集続け、語彙集編纂に携わっている。このように、トンサワン語については、上にあげた地元の研究者によるトンサワン語音韻論、文法あるいは語彙の記述

がいくつか確認されるのみである。

ミナハサ地方の言語環境はポリグロシヤの状態にある。現在、メナド・マレー語、インドネシア共和国の国語であるインドネシア語に加えて、各地域の地方語が領域によって使い分けられる。インドネシア語はもっぱら学校で学ぶことばであり、あらたまった公的な領域で使用されるコードである。その習得の度合は教育歴による個人差が著しい。さらに、メナド・マレー語と地方語の間にも領域ごとの役割の分担が確認される。ただし、異なった地方語をそれぞれ話すミナハサ地方出身者が居住するメナド市内においては、地方語の使用は当然かなり限定されている。地方語は出身地を同じくする仲間うちで、おもに年長者に対して用いるコードである。メナド市内の多くの地域において、同郷の者同士でかたまつて住む傾向が確認されるが、様々な領域で地方語に代えてメナド・マレー語を常用する若い世代が増え続け、これを母語として育つ者も少なくない。

地方語に対するメナド・マレー語の蚕食によって程度の差はあれ地方語の衰退が進んでいて、若者が伝統言語に対して部分的な知識しか持たないため近い将来地方語のいくつかは消滅する可能性があるという警告する調査が報告されている。たとえば、Tallei (1976) が20数年前に行なった北スラウェシ州におけるメナド・マレー語の使用についての調査結果によれば、当時すでにミナハサ地方のトンセアでは15歳から20歳までの青少年で地方語であるトンセア語を使う人は非常に少なくなっているという報告している。トンセア語のみならずミナハサ地方の地方語のいくつかは、古い世代が亡くなれば完全に消滅してしまう可能性を否定できない。さらに Tallei (1995) では、北ス

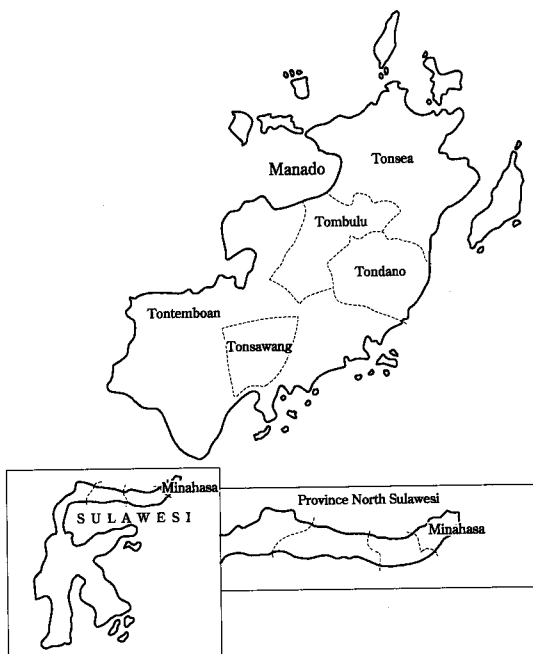


図3 ミナハサ言語地図

出所 Sneddn (1978 : iix) を参考に一部修正

トンバトウ郡、トンサワン村におけるトンサワン語の選択

ラウェシの四つの県であるミナハサ県、ゴロンタロ県、ボラアン・モンゴンドウ県、およびサンギル・タラウド県で面接調査、および観察法による言語使用を概観した結果、ミナハサ県以外の三つの県においてもメナド・マレー語の使用が徐々に拡大していると報告している。

また、筆者(平林 1999)が1999年に行なったメナド市内の中高生に対する現地調査によると、メナド市で若者が最も流暢に話す言語はメナド・マレー語であり、これが全体の9割にも及んだ。インドネシア語がこれに次ぎ、地方語はほとんど選ばれることはなかった。地方語の使用は祖父母に対する場合などごく少数の領域に限定され、インドネシア語は授業中やその他のフォーマルな場面、あるいは抽象的語彙を使用する場合に限られることが確認された。クラス討議では、インドネシア語を好んで使う傾向が確認されたのに対して、校内食堂で昼食をとったり、校庭で休憩時間を過ごす時にはメナド・マレー語を話す学生が圧倒的に多かった。さらに、父母や兄弟姉妹、隣家の子どもに対してもメナド・マレー語の使用が圧倒的に多く、祖父母に対しては地方語の使用も確認されるが、やはりメナド・マレー語が圧倒的に多いことが確認された。

さらに、メナド市内での調査に続いて、筆者(平林 2000)はトンバトウ郡において現地調査を行ない、郡庁周辺のトンバトウI、トンバトウII、トンバトウIIIにおいてデータを収集した。この現地調査によれば、トンバトウ郡中心部においてもメナド・マレー語、インドネシア語、それに地方語であるトンサワン語の3つのコードが使い分けられるのであるが、これらのコードの領域ごとの役割分担、とくに地方語とメナド・マレー語の果た

す役割が、メナド市に近い地域とはかなり異なっていることが確認された。

すなわち、トンバトウ郡庁周辺地域においてはいくつかの領域において地方語の使用がいまだに顕著である。また地方語であるトンサワン語を最も得意だと答えた回答者は全ての年齢で2割強、若年層で1割弱、高年層では6割強に達した。このように地方語であるトンサワン語の果たす役割は地域内では決して小さくはないが、このコードが若い世代を中心に徐々に使われなくなりつつあることが確認される。若者がメナド・マレー語を常用する率が高いのに対して、高年層はトンサワン語を常用する率ももっとも高く、特に「60歳以上の相手」、「父母」、「腹をたてる」、「愚痴を言う」、「親友に対して」でトンサワン語を選ぶ率は6割から9割におよぶ。

トンバトウ郡中心部の若い世代の間にもメナド・マレー語の使用が広がりつつあるが、領域によっては地方語の使用がいまだ顕著に認められる。ただし若い世代の地方語使用能力は限定的であり、上の世代に対してはトンサワン語単独では意思の疎通をはかることはほぼ不可能である。小学校、中学校の授業でも教師はバハサ(Bahasa)と呼ばれるトンサワン語とバハサ・パサール(Bahasa Pasar)と呼ばれるメナド・マレー語の混用に頼らざるをえない。このような状況のもとで、ローカルカリキュラムとして地方語の授業が続けられ、トンサワン語の保持がはかられている。一方、高年層においては、ほとんどの領域において地方語が依然優勢である。

これに対して、トンバトウ郡の中心地、郡庁周辺から約12km離れた山間の村落トンサワン村では、言語使用のパターンは中心地とは異なる可能性が

予想される。道路の状態が劣悪で徒歩によって行き来しなければならないため、村外の人々との交流は限られている。従って、メナド・マレー語の使用は限られ、地方語の果たす役割は高年層のみならず若年層においてもなおも堅固である可能性が予測される。村のなかではトンサワン語が常用され、バハサ・パサールあるいはムラユ・マナドと呼ばれるメナド・マレー語は、おもに村民がふもとの町へ降りた時に使う接触言語として、外部の者との交流の場で使用される。しかし、若年層を中心に、徐々にトンサワン語とメナド・マレー語を混用することが多くなりつつある。ここでも小学校、中学校の授業では教師はバハサ・チャンプールと称されるトンサワン語とメナド・マレー語の混用に頼らざるを得なくなりつつある。一方、インドネシア語の使用はきわめて限定的である。

IV. トンサワン村におけるトンサワン語使用の調査

1. 調査の方法

トンバトウ郡は中心地 (Pusat Kota) にあるトンバトウ I, トンバトウ II, トンバトウ III およびベテレン (Betelen) の 4 つのデサと郊外 (Luar Kota) 22 の村落の合計 26 のデサで構成される。今回の調査は、山間部の村トンサワン村におけるトンサワン語使用の実態を明らかにすることを目的としている。郡内の多くの村で使用されているトンサワン語がどのような領域で選択されるのか、またこのコードがメナド・マレー語やインドネシア語とどのように役割を分担しているのかを世代別に明らかにするために、さまざまな領域におけるコード選択の実態について聞き取り調査によっ

て明らかにする。

今回の調査では、参考資料欄に掲載した調査表 (Questionnaire: Bahasa Melayu Manado RR) を使用し、1999年8月、12月および2000年7月、8月に協力者の協力を得て、トンサワン村において調査表による個別面接調査を実施した。村長宅を中心に Dusun I, Dusun II, および Dusun III の民家居住者を被験者としてデータの収集を行なった。このようにして集めたデータは合計252人分に及んだ。このうち最近外部より転入して来たインフォーマントの回答を除外し、有効回答として248データを得た。この数字はトンサワン村在住者の19%に及ぶ。調査表のフェイスシートで明らかとなった被調査者の属性は次の通りであった。

表 1 被調査者の属性

1. 年齢	13歳より79歳まで33, 平均年齢33.9歳
2. 性別	男:141人, 女:107人
3. 教育	小学校:162人, 中学校:51人, 高校:29人, 高等教育:2人, NA:4人
4. 結婚	未婚:81人, 既婚:166人, NA:1
5. 職業	雇員:1, 自営業・商業:4, 自由労働者:2 主婦:71, 店員:0, お手伝い:11, 学生:5 農業:139, その他:15
6. 現住所	メナド:0, メナド以外:248, NA:0
7. 幼少時居住地	トンバトウ郡:246, メナド:1 ミナハサ外:1, NA:0
8. 他所居住歴	なし:233 あり(1年未満):6 あり(1年以上)9, NA:0

次の表2はインフォーマントの年齢構成を示す。30歳以下を若年層, 31歳以上50歳までを中年層, そして51歳以上を高年層とする。下の表に示すように男女の比率は各年齢層ともほぼ同数であった。

トンバトウ郡，トンサワン村におけるトンサワン語の選択

表2 インフォーマントの年齢構成

	男	女	計
若年層 (30歳以下) :	70	57	127
中年層 (31—50歳) :	49	33	82
高年層 (51歳以上) :	22	17	39
合 計	141	107	248

面接によって各インフォーマントにもっとも得意なコードを尋ね、次いで、家族、交わり、公の場、感情、精神思考および売り買いなどに関わる典型的な領域における合計22の下位領域において各回答者が選択するコードを質問した。さらにそれぞれの下位領域について、使用コードと年齢層とのあいだに統計的に有意な関係が認められるか、否かを確認した。

2. 領域と使用コード

領域とは、Richards et al. (1985 : 112) によれば、一つあるいは複数の言語変種の組み合わせが常に使われている人間の活動領域であり、多言語社会においては一つのコードがある領域で使用され、別のコードが他の領域で使用されることがあると説明される。ミナハサ地方には三つの言語変種が併存し、それぞれが異なった社会的役割を分担しているポリグロシヤとよぶ状態にある。ポリグロシヤ・コミュニティーにおいて特定のコードあるいはサブコードが好んで使用される現場は領域と定義され、さらに領域を細かく分けて以下のように下位領域とすることが可能である。

- 家 族：祖父母，父母，きょうだい，配偶者，
舅姑，婿嫁
- 交 わり：年下，親友，60歳以下，見知らぬ人
- 公 の 場：開会前，儀式の主宰者，執務中
- 感 情：冗談を言う，真剣，なだめる，腹を

立てる，愚痴を言う

精神思考：祈る，数を数える

売り買い：パサール，商店

異なった領域ごとの使用コードを尋ねる前に、それぞれの回答者がもっとも得意とするコードを尋ねた。下にあげた6つのコードのうち、各人がどのコードを最も得意とするかを聞く質問である。混用とはひと続きの発話の中で複数の異なったコードを混ぜて使用することとする。混用を独立した一つのコードとみなすことには異論があるかもしれない。小学校、中学校の授業では教師がトンサワン語とメナド・マレー語の混用に頼らざるをえなくなっている状態であることを上で述べたが、領域あるいは下位領域によっては若い世代を中心にこれら二つのコードを混用して、あたかも独立した一つのコードとして使用することが徐々に多くなりつつあるのが現実である。今回の分析ではトンサワン語／メナド・マレー語混用、トンサワン語／インドネシア語混用、あるいはメナド・マレー語／インドネシア語混用などの複数のコードの混用を、以下の通りそれぞれ一つの独立したコードとして扱った。

- (1) トンサワン語 (TSWN 語)
- (2) メナド・マレー語 (BMM)
- (3) インドネシア語 (INDN)
- (4) トンサワン語／メナド・マレー語の混用
(TSWN/BMM)
- (5) トンサワン語／インドネシア語の混用
(TSWN/INDN)
- (6) メナド・マレー語／インドネシア語の混用
(BMM/INDN)

V. トンサワン村におけるトンサワン語の選択

1. データの吟味

まず、自分にとってもっとも得意なコードを各インフォーマントに尋ねた。インフォーマントの回答は各自の常用語とほぼ一致すると考えられる。さらに、家族、交わり、公の場、感情、精神思考および売り買いに関わる日常生活における典型的な領域における合計22の下位領域を設定し、各々の下位領域において各回答者が使用するコードを質問した。ただし選択肢「その他」には無回答を含む。

質問1 次のことばのなかであなたがいちばん上手に使えることばはどれですか？

表3 (得意なコード)

年齢層	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	60.6%	33.1%	0.0%	4.7%	0.8%	0.0%	0.8%
31-50	72.0%	9.8%	2.4%	15.9%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	87.2%	10.3%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%
計	68.5%	21.8%	0.8%	8.1%	0.4%	0.0%	0.4%

表3で示されたように、トンサワン語をもっとも得意とした回答者がもっとも多く総回答数の69%近くに及んだ。全ての年齢層でトンサワン語が最も多く選ばれたが、年齢が高くなるにつれてトンサワン語を得意とする者は増加する傾向が確認される。これに続くのがメナド・マレー語で22%に及び、これとトンサワン語と答えた被験者をあわせると総回答数の91%に及んだ。トンサワン語の場合とは逆の傾向を示し、中年層、高年層ではメナド・マレー語使用が減少する。トンサワン語／メナド・マレー語混用がこれに続くが、8%に止まっている。これに対して、インドネシア語単独、

トンサワン語／インドネシア語混用はともにごく少数であった。

年齢層ごとのコードの選択のパターンについて統計的な有意差があるか否かを調べた。 χ^2 値を算出すると33.877を得た。この値を自由度10で χ^2 検定すると有意確率は0.000となり、設定した有意水準0.05以下となるので、年齢層によって得意なコードの割合が異なっていることについて統計的に有意な関係が確認された。

平林(2000)で報告したトンバトウ郡庁近隣で行なったトンサワン語使用調査の結果と今回の調査の結果とを比較してみると、両グループの間に相当の違いが確認される。トンサワン村においては、トンサワン語をもっとも得意だと答えた回答者は若年層で61%、中年層72%、高年層87%に及ぶのに対して、トンバトウ郡庁周辺では若年層が9%、中年層28%、高年層63%に止まった。これに対してトンサワン村でメナド・マレー語をもっとも得意だと答えた回答者は若年層が33%、中年層10%、高年層10%、トンバトウ郡庁周辺では若年層が46%、中年層39%、高年層10%であった。このようにトンサワン村では郡庁周辺と比べて各年齢層ともトンサワン語を得意とする被験者が圧倒的に多く確認された。これとは逆にメナド・マレー語を選択する率は高年層を除き郡庁周辺でより多いことが判明した。

得意なコードに続いて、質問2から23までの合計22の質問によって家族、交わり、公の場、感情、精神思考、売り買いなどの領域におけるそれぞれの下位領域においてどのコードを選択、使用するかを回答者に質問した。被調査者のなかに就学者が5名と少なかったので教育領域でのデータは採取しなかった。すでに述べたように、トンサワン

トンバトウ郡，トンサワン村におけるトンサワン語の選択

村の中には小学校が2校あるのみで，中学生，高等学生はトンバトウ，ムンドウン，モロンパルの学校へ寄宿したり，下宿をして通う。このためトンサワン村での言語使用のありかたを反映していない可能性があるからである。

(1) 家族領域

家族領域では，「祖父母」，「父母」，「きょうだい」，「配偶者」，「舅姑」，「婿嫁」6つの下位領域を設定し，それぞれの下位領域における使用コードをインフォーマントに尋ねた。

質問2 祖父母と話するときももっともよく使うことばはどれですか？

表4 (祖父母)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	53.5%	5.0%	0.0%	40.9%	0.0%	0.0%	0.0%
31-50	84.1%	4.9%	0.0%	11.0%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	92.3%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%
計	69.8%	4.4%	0.0%	25.8%	0.0%	0.0%	0.0%

トンサワン語を選んだ被験者がもっとも多く，トンサワン語とメナド・マレー語を混用する住民がこれに次ぐ。単独であるいはメナド・マレー語との混用でトンサワン語に関わるコードが全体の96%以上に及んでいることが確認された。この下位領域でのコード選択には年齢による差が確認され，年齢が上がるにつれてトンサワン語の使用は増加するが，トンサワン語／メナド・マレー語混用は逆に中・高年齢層で激減する。メナド・マレー語は単独で使用されることは各年齢層とも少ない。また，インドネシア語，トンサワン語／インドネシア語混用およびメナド・マレー語／インドネシア語混用の使用は確認されなかった。

χ^2 値35.387を自由度4で χ^2 検定すると有意確

率は0.000となり，有意水準0.05以下となるので，この下位領域においても使用コードと年齢層の間には統計的に有意な関係が認められると判断される。

質問3 父や母と話するときももっともよく使うことばはどれですか？

表5 (父母)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	58.2%	3.9%	0.8%	37.0%	0.0%	0.0%	0.0%
31-50	78.0%	6.1%	0.0%	15.9%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	92.3%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%
計	70.1%	4.0%	0.4%	25.4%	0.0%	0.0%	0.0%

各年齢層ともにこの領域でもトンサワン語がもっとも多く使われ，この傾向は年齢が上がるにつれてより強くなる。トンサワン語／メナド・マレー語混用がこれに続くが，中・高年齢層では減少する。両者をあわせるとトンサワン語に関わる割合は96%に及ぶ。ここでもメナド・マレー語の使用は各年齢層ともに非常に限られている。

上と同様に統計処理を行ない， χ^2 値23.901を自由度6で χ^2 検定して，有意確率は0.000を得た。有意水準0.05以下となり，この下位領域において使用コードと年齢層の間には統計的な有意関係が認められた。

質問4 お兄さん，お姉さん，弟，妹と話するときももっともよく使うことばはどれですか？

表6 (きょうだい)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	48.8%	7.9%	0.0%	42.5%	0.0%	0.8%	0.0%
31-50	69.5%	3.7%	0.0%	26.8%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	87.1%	2.6%	0.0%	10.2%	0.0%	0.0%	0.0%
計	61.7%	5.6%	0.0%	32.2%	0.0%	0.4%	0.0%

家族領域の下位領域の一つである「きょうだい」においても最も多く選択されるコードはトンサワ

ン語である。トンサワン語／メナド・マレー語混用がこれに続く。年齢が高くなるにつれてトンサワン語単独を多く選択し、低くなるにつれてトンサワン語／メナド・マレー語混用をより多く選ぶ被験者が増える傾向が確認された。メナド・マレー語単独の選択はこの下位領域においても限定的である。

χ^2 値22.374を自由度6で χ^2 検定すると有意確率は0.001となり、有意水準0.05以下となるので、使用コードと年齢層の間には統計的有意関係が認められた。

以下の「配偶者」および「婿嫁」における使用コードを尋ねる質問は既婚者のみを対象とする質問である。全被験者248人の内、既婚者は166人、未婚者は81人、不明が1人であった。既婚者の年齢層別内訳は若年層が48人、中年層79人、および高年層39人である。

質問5 配偶者と話すときもっともよく使うことはどれですか？

表7 (配偶者)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	35.4%	6.3%	0.0%	52.1%	0.0%	0.0%	6.3%
31-50	69.6%	5.1%	0.0%	25.3%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	92.3%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%
計	65.1%	4.2%	0.0%	28.9%	0.0%	0.0%	1.8%

若年層48人、中年層79人、高年層39人、合計166人の既婚者を対象とした質問である。家族領域の下位領域の一つ「配偶者」においても最も多く選択されるコードはトンサワン語である。すなわち配偶者に対してはトンサワン語を用いることがもっとも多いことが確認される。トンサワン語／メナド・マレー語混用がこれに続く。ここでも年齢が高くなるにつれてトンサワン語単独をより多

く選択し、低くなるにつれてトンサワン語単独よりも、メナド・マレー語との混用をより多く選ぶ傾向が確認された。これらの二つのコードはおたがいに逆の相関関係にあると言える。メナド・マレー語単独がこれに続くが非常に少ない。またこれらの下位領域においてもインドネシア語単独、トンサワン語／インドネシア語混用およびメナド・マレー語／インドネシア語混用の使用は確認されない。

上と同様に統計処理を行ない、 χ^2 値36.149を自由度6で χ^2 検定すると、有意確率は0.000と算出され、有意水準0.05以下となるので、ここでも使用コードと年齢層の間には統計的に有意な関係が認められた。

質問6 舅または姑と話すときもっともよく使うことはどれですか？

表8 (舅姑)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	50.0%	6.3%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%	6.3%
31-50	73.4%	6.3%	0.0%	20.3%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	89.7%	2.6%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%
計	70.5%	5.4%	0.0%	22.3%	0.0%	0.0%	1.8%

「配偶者」下位領域の場合と同様に既婚者は166人を対象とした質問である。

この下位領域でもトンサワン語の使用が圧倒的に多い。舅あるいは姑に対してはトンサワン語を多用することが確認される。これに続くのがトンサワン語／メナド・マレー語混用である。ここでも年齢が高くなるにつれてトンサワン語単独がより多く選択され、低くなるにつれてメナド・マレー語との混用が増える。一方メナド・マレー語単独が選ばれることは多くない。ここでもインドネシア語単独、トンサワン語／インドネシア語混用およ

トンバトウ郡，トンサワン村におけるトンサワン語の選択

びメナド・マレー語／インドネシア語混用の使用は確認されない。

χ^2 値22.0007を自由度6で χ^2 検定すると有意確率は0.001と算出され，有意水準0.05以下となるので，使用コードと年齢層の間には統計的な有意関係がここでも確認された。

質問7 婿嫁と話すときももっともよく使うことばはどれですか？

表9 (婿嫁)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	36.4%	0.0%	0.0%	22.7%	0.0%	0.0%	40.9%
31-50	64.3%	7.1%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	80.6%	0.0%	0.0%	19.4%	0.0%	0.0%	0.0%
計	64.0%	3.0%	0.0%	24.0%	0.0%	0.0%	9.0%

舅あるいは姑が，嫁または婿に対して使用するコードを尋ねた質問である。既婚であり，なおかつ婿あるいは嫁がいる被験者は合計100名であった。年齢層別の被験者の内訳は若年層22人，中年層42人，高年層36人である。[舅姑]下位領域と良く似た傾向を示している。婿嫁に対してもトンサワン語を多用することが確認される。

χ^2 値40.912と算出され，これを自由度6で χ^2 検定すると有意確率は0.000と算出された。有意水準0.05以下となるので，使用コードと年齢層の間には統計的に有意な関係が確認された。

(2) 交わり

ここでは「交わり」の下位領域である「年下」，「親友」，「60歳以下」，および「見知らぬ人」における使用コードを調べた。

質問8 自分よりも年下の相手と話すときももっともよく使うことばはどれですか？

表10 (年下)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	25.2%	27.6%	0.8%	44.9%	0.8%	0.0%	0.8%
31-50	60.9%	7.3%	0.0%	31.7%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	66.7%	10.3%	0.0%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%
計	43.5%	18.1%	0.4%	37.1%	0.4%	0.0%	0.4%

トンサワン語の使用がもっとも多く確認された。特に中，高年層で激増する。これに次ぐのがトンサワン語／メナド・マレー語混用であるが，このコードの使用は年齢が下るにつれて漸減する傾向を示す。ただし，若年層ではトンサワン語／メナド・マレー語混用がもっとも多く選ばれている。更に，メナド・マレー語も若年層で多く選択されている。ここでもこれ以外のコードが使用されることはほとんどない。

χ^2 値は40.807となり，これを自由度10で χ^2 検定すると有意確率は0.000となり，有意水準0.05以下となるので，年齢層と使用コードとの間には統計的に有意な関係が確認された。

質問9 親しい友人と話すときももっともよく使うことばはどれですか？

表11 (親友)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	37.8%	12.6%	0.0%	49.6%	0.0%	0.0%	0.0%
31-50	58.5%	9.8%	0.0%	31.7%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	76.9%	7.7%	0.0%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%
計	50.8%	10.9%	0.0%	38.3%	0.0%	0.0%	0.0%

「親友」に対して最も多く選ばれたコードはトンサワン語で51%，これに次いでトンサワン語／メナド・マレー語混用で38%あった。ここでもトンサワン語は年齢が高いほど選ばれる率が高く，年齢が低いほどトンサワン語／メナド・マレー語混用が多く選ばれる傾向が確認される。両コードを

あわせると89%を占める。

χ^2 値は21.750を自由度4で χ^2 検定すると、有意確率は0.000となり、有意水準0.05以下となるので、年齢層と使用コードとの間には統計的に有意な関係が確認される。

質問10 60歳以上の人と話すときもっともよく使うことばはどれですか？

表12 (60歳以上)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	67.7%	0.8%	0.0%	31.5%	0.0%	0.0%	0.0%
31-50	85.4%	0.0%	0.0%	14.6%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	89.7%	0.0%	0.0%	10.3%	0.0%	0.0%	0.0%
計	77.0%	0.4%	0.0%	22.6%	0.0%	0.0%	0.0%

高年齢者に対しては全ての年齢層でトンサワン語が際立って多用される。これに次ぐのがトンサワン語/メナド・マレー語混用である。いずれもトンサワン語に関わるコードである。若年者はトンサワン語/メナド・マレー語混用、中・高年齢者はトンサワン語単独を選ぶ傾向がうかがえる。これ以外のコードは高年齢者に対しては通じにくいことが伺える。トンサワン語、トンサワン語/メナド・マレー語混用をあわせると100%に近くなる。

χ^2 値は13.328、これを自由度4で χ^2 検定すると、有意確率は0.010と算出され、有意水準0.05以下となるので、年齢層と使用コードとの間には統計的に有意な関係がここでも確認された。

質問11 会ったことがない人と話すときもっともよく使うことばはどれですか？

表13 (見知らぬ人)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	2.4%	71.7%	7.1%	18.1%	0.0%	0.0%	0.0%
31-50	2.4%	62.2%	12.2%	25.1%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	2.6%	76.9%	10.3%	10.3%	0.0%	0.0%	0.0%
計	2.4%	69.4%	8.5%	19.4%	0.0%	0.4%	0.0%

「見知らぬ人」に対しては当然ながらトンサワン語ではなく地域のリング・フランカであるメナド・マレー語が選ばれ、すべての被験者の7割近くを占めた。メナド・マレー語およびトンサワン語/メナド・マレー語混用をあわせると9割近くに及ぶ。トンサワン語単独の使用は極端に少ないが、公用語であるインドネシア語の使用が他の下位領域に比して多いことに注目される。

χ^2 値は6.004、これに自由度8の χ^2 検定をすると、有意確率は0.647と算出され、年齢層と使用コードとの間には統計的に有意な関係が認められないと判断される。

(3) 公の場

集会が始まる前に仲間と談話するとき、集まりや儀式の最中に儀式の主宰者と話す時、さらに役所で執務中の職員に話し掛ける時もっともよく使うコードを尋ねた。

質問12 礼拝、集会、宴、弔問などの場で、開会の前に仲間と話すときもっともよく使うことばはどれですか？

表14 (開会前)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	8.7%	27.6%	2.4%	61.4%	0.0%	0.0%	0.0%
31-50	26.8%	11.0%	0.0%	62.2%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	51.3%	12.8%	5.1%	30.8%	0.0%	0.0%	0.0%
計	21.4%	19.8%	2.0%	56.9%	0.0%	0.0%	0.0%

トンバトウ郡，トンサワン村におけるトンサワン語の選択

あらたまった席で儀式が始まる前に仲間同士談話する時に使用するコードを問う質問である。トンサワン語／メナド・マレー語混用がもっとも多く、トンサワン語単独がこれに次ぐ。僅差でこれに続くのがメナド・マレー語である。年齢が高くなるにつれてトンサワン語単独を使用する傾向が高くなるのに対して、若年層ではメナド・マレー語およびトンサワン語／メナド・マレー語混用の使用が多い。インドネシア語の使用は確認されるが多くはない。神父，牧師が多くの場合地域外出身者であることがその理由であると考えられる。

χ^2 値は44.278となり、これを自由度6で χ^2 検定をすると、有意確率は0.000と算出され、年齢層と使用コードとの間には統計的に有意な関係が認められると判断される。

質問13 集まりや儀式の最中に儀式の主宰者と話すときももっともよく使うことばはどれですか？

表15 (儀式の主宰者)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	4.7%	44.1%	7.1%	43.3%	0.0%	0.0%	1.0%
31-50	6.1%	25.6%	8.5%	58.5%	0.0%	1.2%	0.0%
51-	23.1%	30.8%	7.7%	38.5%	0.0%	0.0%	0.0%
計	8.1%	35.9%	7.7%	47.6%	0.0%	0.4%	0.4%

「開会前」に比べてよりフォーマルな下位領域である。トンサワン語／メナド・マレー語混用およびメナド・マレー語の多用が確認される。ただしトンサワン語単独の使用は他の下位領域に比べて少ない。集会や儀式の最中に儀式の主宰者に話しかける場合にはトンサワン語／メナド・マレー語混用，またはメナド・マレー語といったメナド・マレー語がかかわるコードが選ばれることが確認された。インドネシア語の使用は確認されるが多

くはない。若年層でメナド・マレー語の多用，中年層でトンサワン語／メナド・マレー語混用がめだつ。

χ^2 値は24.483となり、これを自由度10で χ^2 検定すると、有意確率は0.006と算出され、年齢層と使用コードとの間には統計的に有意な関係が認められる。

質問14 役所で執務中の職員に話し掛ける時もっともよく使うことばはどれですか？

表16 (執務中)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	9.4%	54.3%	7.9%	24.4%	0.0%	0.0%	3.9%
31-50	7.3%	46.3%	14.6%	31.7%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	15.4%	53.8%	12.8%	17.9%	0.0%	0.0%	0.0%
計	9.7%	51.6%	10.9%	25.8%	0.0%	0.0%	2.0%

郡庁などの行政機関や私企業の事務所などで執務中の職員に対して使用するコードを問う質問である。メナド・マレー語がもっとも多く使われ、トンサワン語／メナド・マレー語混用がこれに次ぎ、これら二つのコードで77%に及ぶ。メナド・マレー語を含むコードが圧倒的であることが確認される。インドネシア語の使用が確認される。

χ^2 値11.602を自由度8で χ^2 検定すると、有意確率は0.170と算出され、年齢層と使用コードの間には統計的に有意な関係が認められない。

(4) 感情

「冗談を言う」，「真剣」，「なだめる」，「腹を立てる」，「愚痴を言う」などのさまざまな感情のありかたに関わる下位領域でのコード選択を問う質問である。

質問15 冗談を言う時もっともよく使うことばはどれですか？

表17 (冗談を言う)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	41.7%	4.7%	0.0%	52.8%	0.0%	0.0%	0.8%
31-50	57.3%	1.2%	0.0%	41.5%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	71.8%	0.0%	0.0%	28.2%	0.0%	0.0%	0.0%
計	51.6%	2.8%	0.0%	45.1%	0.0%	0.0%	0.4%

冗談を言う時もっともよく使用するコードとしてトンサワン語を選ぶと答えた回答者が最多であった。僅差でトンサワン語/メナド・マレー語の混用がこれに続く。トンサワン語を選ぶと答えた被験者は年齢層が高くなるほど増加の傾向にあり、トンサワン語/メナド・マレー語の混用の場合はこれとは逆の傾向を示す。両者で全ての回答数の97%を占める。メナド・マレー語が選ばれることはきわめて少ない。

χ^2 値は14.778となり、これを自由度6で χ^2 検定すると、有意確率は0.022と算出され、年齢層と使用コードとの間には統計的に有意な関係が認められた。

質問16 真剣になにかに取り組んでいる時もっともよく使うことばはどれですか？

表18 (真剣)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	29.9%	21.3%	0.0%	46.5%	0.0%	0.0%	1.6%
31-50	51.2%	7.3%	1.2%	39.0%	0.0%	1.2%	0.0%
51-	79.5%	5.1%	2.6%	12.8%	0.0%	0.0%	0.0%
計	44.8%	14.1%	0.8%	38.7%	0.0%	0.4%	1.2%

全体的な傾向としてはトンサワン語、トンサワン語/メナド・マレー語混用、メナド・マレー語単独という順序であった。その他のコードの使用は非常に少ない。年齢別に見るとここでもトンサワン語単独とトンサワン語/メナド・マレー語混用の使用率について逆の傾向が確認される。すな

わちトンサワン語単独は年齢と比例して多く選ばれるのに対して、トンサワン語/メナド・マレー語混用はこれとは逆である。また「冗談を言う」領域に比べてインドネシア語の選択が若年層を中心として増加している。

χ^2 値は43.329を得、これを自由度10の χ^2 検定を行なうと、有意確率は0.000と算出され、ここでも年齢層と使用コードの間には統計的に有意な関係が認められた。

質問17 小さい子をなだめる時もっともよく使うことばはどれですか？

表19 (なだめる)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	11.0%	45.7%	1.6%	40.9%	0.0%	0.0%	0.1%
31-50	4.6%	29.3%	6.1%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	28.2%	20.5%	2.6%	48.7%	0.0%	0.0%	0.0%
計	14.9%	36.3%	3.2%	45.2%	0.0%	0.0%	0.4%

子どもをなだめる時もっともよく使われるコードはトンサワン語/メナド・マレー語混用、これに次いでメナド・マレー語が選ばれた。単独で、あるいは他のコードとの混用でメナド・マレー語が関与する率はこの下位領域で82%に及ぶ。若年層でメナド・マレー語の使用が目立つ。またトンサワン語が単独で高年齢層を中心に使用されている。小さい子にとってトンサワン語は比較的理解されにくいコードであるのと判断される。

χ^2 値は17.988と算出され、この値を自由度8で χ^2 検定を行なうと、有意確率は0.021となり、ここでも年齢層と使用コードの間には統計的に有意な関係が認められた。

質問18 腹をたてた時もっともよく使うことばはどれですか？

トンバトウ郡，トンサワン村におけるトンサワン語の選択

表20 (腹をたてる)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	37.0%	3.9%	0.0%	59.1%	0.0%	0.0%	0.0%
31-50	58.5%	2.4%	0.0%	39.0%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	92.3%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%
計	52.8%	2.8%	0.0%	44.3%	0.0%	0.0%	0.0%

怒っている時の使用コードはトンサワン語が選ばれることが最も多く、トンサワン語／メナド・マレー語混用がこれに次ぐ。これら二つのコードを合せて97%を占める。それ以外のコードはまったく選択されないか、または非常にまれである。年齢が高くなるほどトンサワン語が多く選ばれ、低いほどトンサワン語／メナド・マレー語混用を選ぶ率が高くなる。

χ^2 値は38.265を得て、この値を自由度4で χ^2 検定を行なうと、有意確率は0.000となり、ここでも年齢層と使用コードとの間には統計的に有意な関係が認められた。

質問19 愚痴を言う時もっともよく使うことばはどれですか？

表21 (愚痴を言う)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	36.2%	7.1%	0%	55.1%	0.8%	0.0%	0.8%
31-50	59.8%	4.9%	0.0%	35.4%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	87.2%	0.0%	0.0%	12.8%	0.0%	0.0%	0.0%
計	52.0%	5.2%	0.0%	41.9%	0.4%	0.0%	0.4%

愚痴を言う時のコードとしてはトンサワン語が最多であった。トンサワン語／メナド・マレー語混用がこれに続き、それ以外のコードはまったく選択されないか、選ばれても多くはない。トンサワン語単独とトンサワン語／メナド・マレー語混用の間には逆の相関が認められる。ここでも年齢が高いほどトンサワン語を使用、年齢が低いほど

トンサワン語／メナド・マレー語混用を多く使用する。

χ^2 値は35.092と計算され、この値を自由度8で χ^2 検定を行なうと、有意確率は0.000となり、ここでも年齢層と使用コードの間には統計的に有意な関係が認められる。

(5) 精神思考

この領域においては、祈る、数を数えるなどの精神作用に関わる下位領域での使用コードを問う設問である。

質問20 ひとりでお祈りする時もっともよく使うことばはどれですか？

表22 (祈る)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	3.1%	38.6%	41.7%	15.0%	0.0%	0.0%	0.0%
31-50	6.1%	48.8%	17.1%	28.0%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	17.9%	25.6%	12.8%	43.6%	0.0%	0.0%	0.0%
計	6.5%	39.9%	29.0%	23.8%	0.0%	0.0%	0.8%

教会、モスクあるいは自宅でひとりで祈りをささげる時のコードを問う質問である。おごそかで厳粛な雰囲気を要求される領域である。メナド・マレー語がよく選ばれ、インドネシア語、トンサワン語／メナド・マレー語混用がこれに続く。また、トンサワン語単独が使用されることが非常に少ないことが確認される。

χ^2 値は41.559となり、この値を自由度8で χ^2 検定を行なうと、有意確率は0.000となる。従って、ここでも年齢層と使用コードの間には統計的に有意な関係が認められた。

質問21 数を数える時もっともよく使うことばはどれですか？

表23 (数を数える)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	8.7%	45.7%	7.1%	38.6%	0.0%	0.0%	0.0%
31-50	17.1%	32.9%	6.1%	43.9%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	35.9%	28.2%	7.7%	28.2%	0.0%	0.0%	0.0%
計	15.7%	38.7%	6.9%	38.7%	0.0%	0.0%	0.0%

メナド・マレー語およびトンサワン語／メナド・マレー語混用が同数で最多、全ての回答の77%を占める。メナド・マレー語が多く選ばれるのは、このコードがバハサ・パサールと呼ばれ接触言語として交易に使われるコードであることが理由であると判断される。これに次ぐのがトンサワン語であった。一方、インドネシア語の選択は7%に止まった。年齢が高くなるほどトンサワン語が多く選ばれ、若年層でメナド・マレー語を選ぶ率が高くなる

χ^2 値は19.427に対し、自由度6で χ^2 検定を行なうと、有意確率は0.003となる。従って、ここでも年齢層と使用コードとの間には統計的に有意な関係が認められた。

(6) 売り買い

異なったエスニック・グループが定期的に交易する場であるパサール、常設店である商店でのことばのやりとりで使用することばを尋ねる質問である。

質問22 パサールで買い物する時もっともよく使うことばはどれですか？

表24 (パサール)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	3.1%	51.2%	0.0%	44.1%	0.0%	0.0%	0.8%
31-50	2.4%	31.7%	2.4%	63.4%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	25.6%	20.5%	0.0%	53.8%	0.0%	0.0%	0.0%
計	6.5%	39.9%	0.8%	52.0%	0.0%	0.0%	0.8%

パサールでは比較的小資本の商人や地元住民によって地元の生鮮食料品を中心に商いが行なわれる。商店と比べて商売の規模は小さく、常設店は少ない。昼過ぎには商品をおおた売りつくしてしまい店を閉じることが多い。トンサワン村の住民は定期市の立つ日に山を下りて、トンバトウやムンドウン村で椰子酒や農産物を売って現金収入を得たり、必要な物資と交換する。メナド・マレー語はバハサ・パサールと呼ばれる接触言語であることから、ここでもよく使用されることが予測された。しかし、実際にはトンサワン語／メナド・マレー語混用がもっともよく使用されて、これにメナド・マレー語単独が続く。メナド・マレー語はトンサワン語との混用で使用される場合を含めると実に92%にも及んでいることが分かる。メナド・マレー語が域内リング・フランカとして交易語としての役割を担っていることが再確認される。トンサワン語単独は7%に止まり、主に高年齢層による使用に限られる。トンサワン語／メナド・マレー語混用の使用は、特に、中年層に目立ち、若年層にはメナド・マレー語の使用が認められる。

χ^2 値は45.112となり、これを自由度8で χ^2 検定を行なうと、有意確率は0.000を得た。従って、ここでも年齢層と使用コードの間には統計的に有意な関係が認められた。

質問23 商店で買い物する時もっともよく使うことばはどれですか？

トンバトウ郡，トンサワン村におけるトンサワン語の選択

表25 (商店)

年齢層	使用コード						
	TSWN	BMM	INDN	TSWN/BMM	TSWN/INDN	BMM/INDN	その他
-30	0.8%	66.9%	1.6%	29.1%	0.0%	0.8%	0.8%
31-50	1.2%	46.3%	7.3%	45.1%	0.0%	0.0%	0.0%
51-	15.4%	35.9%	0.0%	48.7%	0.0%	0.0%	0.0%
計	3.2%	55.2%	3.2%	37.5%	0.0%	0.4%	0.4%

パサールと比べて経営規模が比較的大きい商店は地元住民が経営し、常設店舗において食料品、日用品、雑貨あるいは簡単な械器、工具などを販売する。ミナハサ地方には華人が経営する店も目立つ。「パサール」領域の場合と異なり、メナド・マレー語が最多であり、トンサワン語／メナド・マレー語混用がこれに次ぐ。両コードを合すると93%になる。トンサワン語単独を選んだのは主に高年齢層の回答者であったが、他年齢層の回答を合算しても3%に止まり、「パサール」下位領域の場合よりも更に減少する。

χ^2 値は41.637と求められ、これに対して自由度10の χ^2 検定を実施し、有意確率は0.000を得た。従って、ここでも年齢層と使用コードとの間には統計的に有意な関係が認められた。

2. 考 察

以上の結果から、トンサワン村におけるコード選択の全体的な傾向が明らかとなった。トンサワン村においては、住民の母語であるトンサワン語がいまだに堅持されており、地域社会における様々な領域（下位領域）において広く使用されている。またもっとも得意なコードとしてトンサワン語と回答した被験者はメナド・マレー語と答えた被験者の約3倍にのぼった。トンサワン語使用の具体的な傾向については後述する。

一方、国語であるインドネシア語は「祈る」下

位領域で多く選ばれたが、それ以外の下位領域では選択されることはほとんどなかった。もっとも得意なコードとしてトンサワン語に次いで多かったメナド・マレー語がよく選択されるのは、「見知らぬ人」、「儀式の主宰者」、「執務中」、「なだめる」、「祈る」、「数を数える」、「パサール」、「商店」などいくつかの下位領域であった。このうち「数を数える」、「パサール」、「商店」といった三つの下位領域でメナド・マレー語が選択されるのはこのコードがバハサ・パサールと称される所以である。これらの下位領域では、トンサワン語／メナド・マレー語混用の多用が際立っている。トンサワン語が単独で使用されることは少ない。

今回の被調査者の回答はほとんどがトンサワン語、メナド・マレー語およびトンサワン語／メナド・マレー語混用といった三つのコードのいずれかに限られ、インドネシア語、トンサワン語／インドネシア語混用、メナド・マレー語／インドネシア語混用などのコードが選ばれることは極めて少なかった。

また、次に示す二つの下位領域を除いて使用コードと年齢層のあいだに統計的に有意な関係が認められた。これによって年齢によってコード選択のパターンがそれぞれ異なることが裏付けられた。下位領域ごとの具体的な傾向は前章で示したとおりである。一方、使用コードと年齢層のあいだに統計的に有意な関係が認められなかった下位領域は、交わり領域の「見知らぬ人」と公の場領域の「執務中」であった。「見知らぬ人」では年齢を問わず北スラウェシ州全域のリングフランカであるメナド・マレー語がもっとも多く選ばれる。「執務中」においてもメナド・マレー語が各年齢層でほぼ同じ率でもっとも多く選ばれた。またこれ

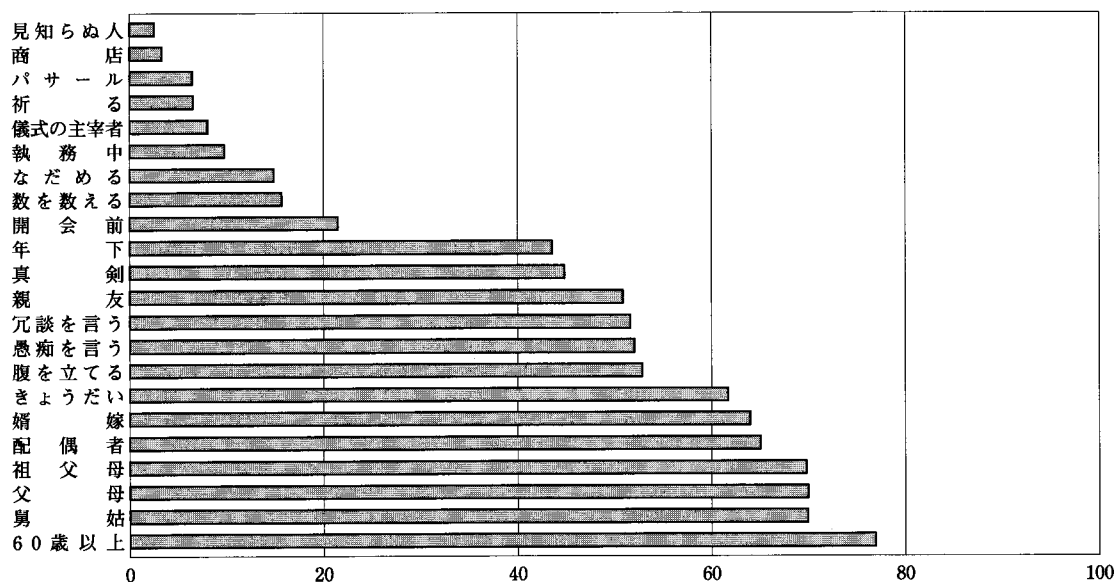


図4 トンサワン村におけるトンサワン語の使用

らの二つの下位領域においてトンサワン語が選択されることはすべての年齢層で少ない。トンサワン村居住者の下位領域ごとのトンサワン語選択率は図4に示すとおりであった。

ここで示されるように「祖父母」、「父母」、「きょうだい」、「配偶者」、「舅姑」、「婿嫁」など家族領域におけるすべての下位領域でトンサワン語の選択が際立っている。交わり領域の下位領域である「60歳以上」では、もっとも多くの被験者がトンサワン語を使用すると答えている。高齢者が使用するコードのレパートリーが限られていることがその理由の一つであると推測される。交わり領域では「親友」、「年下」、「見知らぬ人」の順でトンサワン語選択率が減少する。とくに「見知らぬ人」ではトンサワン語の使用はごくわずかであり、トンサワン語は初対面の部外者に対して使用する

コードではなく、身内や親しい相手に対して用いるコードであることが確認される。

公の場領域では「開会前」、「儀式の主宰者」、「執務中」などの下位領域でトンサワン語が使われるが、トンサワン語が単独で使用されるよりもメナド・マレー語とトンサワン語が混用されて使用される傾向が圧倒的に強い。

感情の下位領域である「腹をたてる」、「愚痴を言う」、「冗談を言う」、「真剣」ではトンサワン語の使用が際立っているのに対して、「なだめる」ではかなり少なくなっていることが確認される。この下位領域が多くの場合子どもをはじめトンサワン語が堪能ではない相手に対するはたらきかけにかかわる下位領域であることがその理由であると考えられる。

精神思考の領域における下位領域「祈」、「数

トンバトウ郡，トンサワン村におけるトンサワン語の選択

を数える」では、トンサワン語よりもメナド・マレー語、あるいはメナド・マレー語／トンサワン語混用がより多く選択される。また、売り買い領域における下位領域である「パサール」と「商店」ではトンサワン語の使用は非常に少ない。

以上でトンバトウ郡トンサワン村におけるトンサワン語の使用について検討した。トンバトウ郡内におけるトンサワン語の使用の傾向については、地域による大きな差が確認される。筆者が郡庁周辺の家屋密集地で昨年度に行なった調査（平林2000）の結果を以下に示す。ただし、ここでは「舅姑」、「配偶者」、「婿嫁」及び「執務中」の四つの下位領域については集計の対象とはしていないので、その結果をしめすことはできない。

図5から、集計の対象となった下位領域の多くにおいて、郡庁周辺のトンサワン語コミュニティよりも、トンサワン村のほうにトンサワン語の使用が際立って多いことが確認される。トンサワン村においてトンサワン語がよりよく使用さ

れ、コミュニティ内の意思疎通の役割をより十分に果たし、メナド・マレー語の侵食に抵抗し、その結果母語の純粋性がより保たれていると判断される。これに対して人の出入り、交流がより頻繁な郡庁周辺コミュニティでは、比較した下位領域の多くでトンサワン語の使用率がトンサワン村を大きく下回っていた。トンサワン語使用率がトンサワン村を上回った下位領域は「パサール」および「商店」の二つのみに限られる。

二つのコミュニティの間に認められるこのような違いの原因を、地理的条件および教育的条件の違いに求めることが妥当であると考えられる。トンサワン村においては道路の状態が劣悪で、ふもとの村へ行き来は徒歩に頼らねばならないために、外部の人たちとの接触が比較的制限されていること。他所からの入植者もまれであることなどから、域外の人との交流の機会が限定されメナド・マレー語を使う機会が限られていること。さらに、メナド・マレー語の使用はおもに外界との交流に

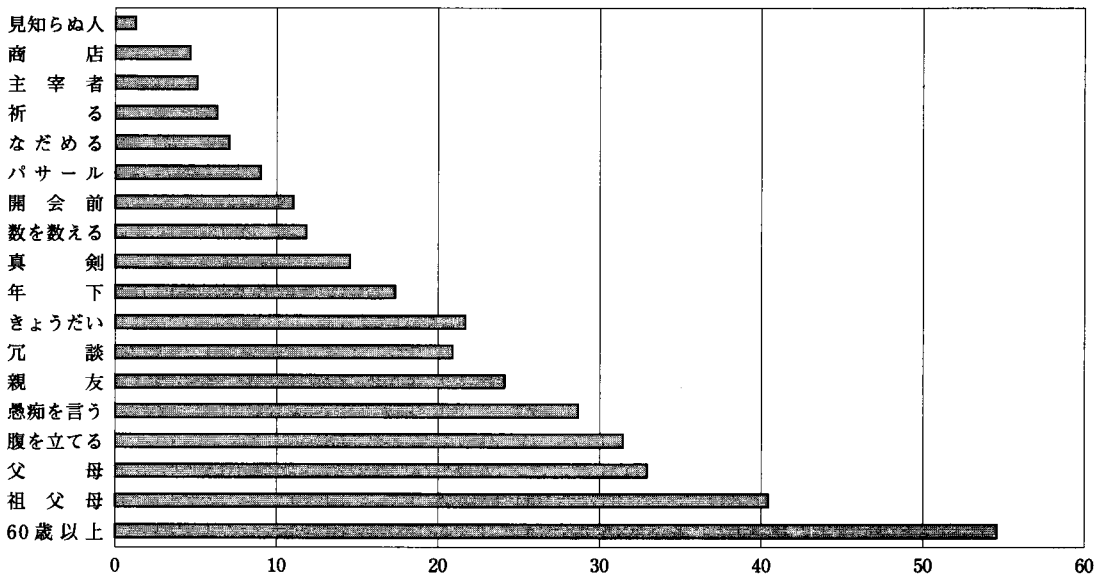


図5 郡庁付近におけるトンサワン語の使用

限られ、域内ではトンサワン語で用が足りることが多い。村ではバハサと呼ばれるトンサワン語が常用され、バハサ・パサルあるいはムラユ・メナドと呼ばれるメナド・マレー語は村民がふもとへ下りた時の接触言語として使用される。

さらに、中学校、高等学校就学者、修了者が比較的少ないこともトンサワン村でのトンサワン語使用の優位という傾向をさらに強くする要因の一つであると考えられる。村の中には中学校、高等学校が設置されていないために、就学希望者はトンバトウ、ムンドウン、モロンパルの学校へ寄宿したり、下宿することを余儀なくされる。また中途退学者がかなり多く、学校教育修了者が少ないため、インドネシア語を学んだり、メナド・マレー語を身につける機会を逸することが多い。

ただし、若い世代を中心としたトンサワン語離れの傾向は、郡庁付近のみならず、トンサワン村においても、大きな差が認められるものの、確かに認められる。トンサワン村において母語であるトンサワン語の衰退が将来深刻になる可能性が否定できないことは、収集したデータの分析によって示した通りである。

母語としてのトンサワン語の将来をトンサワン語話者の持つ言語態度 (language attitude) という観点から検討することは興味深い。Richards et al. (1985 : 201) は、言語態度を異なった言語または言語変種を持つ話者がある特定の言語に対して抱く肯定的あるいは否定的態度であると定義している。言語態度は当然言語の学習に影響を及ぼし、ある言語に対して肯定的な態度を抱く場合にはその言語の学習、習得が促され、否定的態度を抱く場合には学習、習得が阻害される可能性があると考えられている。

Bradley (2000 : 87) は、ある言語社会である言語が使われなくなってしまうか、維持されるかを決定する要因は、当該言語社会のその言語に対する態度であると考えている。すなわちその言語集団が持つ自分たちや自分たちの使用言語に対して持っている態度、および自分たちの言語自体や言語を維持することがみずからのアイデンティティーの中核をなす要素であると認識しているかが枢要であると考えているのである。

トンサワン語話者たちがトンサワン語に対してどのような言語態度を持っているのか、また彼らの言語態度が本論で明らかになったトンサワン語話者のトンサワン語使用にどのように反映され、また今後トンサワン語の将来にどのような影響を及ぼすと予測されるのかを明らかにすることは意義があることである。このために、トンサワン村において二世帯、三世帯同居家族に対して面接調査を行ない、彼らの言語態度に付いて明らかにする必要がある。

VI. 結論と今後の課題

1. 要約と結論

今回のフィールド調査は、ミナハサ県下、トンバトウ郡の山間の村落、トンサワン村におけるトンサワン語の選択の実態を聞き取り調査により明らかにし、コミュニティにおいてトンサワン語がいかに使用されているかをすることを調べることを目的に行われた。

ミナハサ地方では住民の社会生活に関わるさまざまな領域で三種類以上の言語変種が使い分けられている。ポリグロシヤと呼ばれるこのような言語状況において、住民はインドネシア語、メナド・

トンバトウ郡、トンサワン村におけるトンサワン語の選択

マレー語および地方語のなかから領域ごとに使用するにふさわしいコードを選んだり、切り替えているのである。

トンサワン村においてはインドネシア語、メナド・マレー語およびトンサワン語の三つのコードを基本とし、必要に応じて複数のコードを混用して、領域ごとのコードの使い分けがなされる。居住者の母語であるトンサワン語がコミュニティの中でどのように使用されているのかを明らかにするために、家族、交わり、公の場、感情、精神思考、および売り買いに関わる領域を設定し、これらの主要領域に関わる22におよぶ下位領域における使用コードを調べた。さらに、コード選択のパターンが年齢によってどのように異なるかを明らかにした。

分析の結果、トンサワン村においては住民の母語であるトンサワン語が維持されていて、地域社会のさまざまな場面で広く使われていることが確認された。また、もっとも得意なコードとして、トンサワン語を選んだ被験者はメナド・マレー語を選んだ被験者の三倍にもなった。

トンサワン村における住民のこのようなコード選択の実態は、郡庁周辺のトンサワン語話者コミュニティでの状況とはかなり異なっている。日常生活におけるさまざまな下位領域において、トンサワン語を選択する率はトンサワン村におけるほうが際立って高い。また、トンサワン語がコミュニティ住民間の意思疎通の役割をより十分に果たし、メナド・マレー語の侵食に抵抗し、その結果母語としてのトンサワン語の純粋性がより保たれていると判断される。

これに対して、郡庁周辺では、比較した多くの下位領域においてトンサワン語の使用率がトンサ

ワン村を大きく下回っていた。ふたつのコミュニティの間に確認されるこのようなコード選択パターンの違いは、その原因を地理的及び教育的条件の違いに求めることが妥当である。トンサワン村では道路の状態が劣悪で外部の人との接触が制限されていること、また、小学校、中学校への就学者も比較的少ないことから、インドネシア語やメナド・マレー語を身につける機会を逸する原因となっている。これらの条件はトンサワン語選択についてトンサワン村優位という傾向の大きな要因であると考えられる。

しかしながら、ミナハサ地方の他の地域で問題となっている地方語離れの傾向は、郡庁周辺コミュニティにおいてのみならず、トンサワン村においても認められる。母語であるトンサワン語の衰退が将来現実のこととなる可能性が否定できないことは、データの分析によって示された通りである。

2. 今後の課題

トンサワン村においてトンサワン語話者のトンサワン語に対する言語態度を明らかにすることの必要性についてはすでに述べた通りである。トンサワン語話者の言語態度は彼らのトンサワン語使用に反映され、今後トンサワン語の将来に大きな影響を及ぼすと予測される。

また、トンバトウ郡のトンサワン語話者コミュニティの言語使用についてその全体像を把握するためには、今後できるだけ多くの未調査村落において言語調査を実施することが必要である。

さらに、言語使用の調査と並行して、トンサワン語の記述にも取り掛かる必要があることが実感される。ミナハサ地方ではリング・フランカとして

広く通用しているメナド・マレー語の常用化が進み、地方語が顧みられることが少なくなりつつある。他の郡と比べて、トンバトウ郡では地方語が比較的よく保持されているものの、若い世代を中心にトンサワン語の運用能力は下がっており、トンサワン語をメナド・マレー語と混用することが増えつつある。できるだけ早くトンサワン語の記述をおこなうことによってトンサワン語の衰退を防ぎ、保護、維持のための一助とすることが可能であると実感される

今回のトンサワン村における調査にあたって、村長である Willem Sumendap 氏に調査のための便宜をはかっていただいた。ここにあらためて感謝の気持を表したい。さらに、国立メナド大学専任講師 Drs. Yusuf D. Ondang 氏にも質問票編集に貴重なアドバイスをいただいた。またトンバトウ郡ムンドウン村の居住者である Drs. Maxi Koyong 君には、現地でのデータ取集中常に筆者に同行していただき力を貸していただいた。筆者の勤務先の同僚である西村千尋先生にはデータの統計分析でお世話になった。さらに、今回の聞き取り調査にこころよく応じて、インタビューに応じて下さり、データを提供していただいたトンサワン村住民のみなさまのご協力に対して感謝の気持を表したい。最後に調査が平成11年度長崎県立大学国際文化経済研究所国外研究調査事業によって実現したことを申し添え、あらためて感謝の気持を表したい。

参考文献

平林輝雄 「北スラウェシ州(セレベス)メナドにおける中学生、高校生のコード選択」『長崎県立大学論集』第33巻、第一号、長崎県立大学学術研究会、1999年、27-53頁。

- ... , 「ミナハサ県、トンバトウ郡におけるトンサワン語の使用」『長崎県立大学論集』第34巻、第一号、長崎県立大学学術研究会、2000年、23-53頁。
- Richards, Jack, John, Platt, and Heidi Weber, 応用言語学辞典, Longman, 1985
- Bradley, David, "Language attitude: The key factor in language maintenance", *Conference Handbook on Endangered Languages* 国際学術講演会「危機に瀕した言語」英文予稿集, 2000年, pp.86-93.
- Ethnologue Indonesia ホームページ <http://www.sil.org/ethnologue/countries/Inds.html>. 1999年8月12日.
- Ferguson, Charles, "Diglossia", *Word*, Vol.15, 1959, pp.325-340.
- Fishman, Joshua A. *Advances in the Sociology of Language I*, The Hague: Mouton, 1971.
- Manoppo-Watupongoh, Geraldine, Y.J., *Bahasa Melayu Surat Kabar di Minahasa pada abad ke -19*, Disertasi Doktor, Universitas Indonesia, 1983.
- Najoan, Karisoh J.A., M.A. Liwoso, Kinajati Djojuroto, and L. Kembuan, *Morfologi dan Sintaksis Bahasa Melayu Manado*, Pusat Pembinaan dan Pengembangan Bahasa Departmen Pendidikan dan Kebudayaan, 1981.
- Noorduyn, J, *A Critical Survey of Studies on the Languages of Sulawesi*, KITLV Press, 1991.
- ... , "The Languages of Sulawesi" in Steinhauer, H. (ed.), *Papers in Australian Linguistics No.1*, Department of Linguistics, Research School of Pacific Studies, The Australian National University, 1991, pp.137-150.
- Platt, T. John, "A model for polyglossia and multilingualism (with special reference to Singapore and Malaysia)", *Language in Society* Vol.3, 1977, pp. 361-378.
- Rorong, Ferdy, *Lexical System in the Tonsawang Society's Concept of Health*, (in Indonesian), Master's Thesis in Anthropological Linguistics, Sam Ratulangi University, Manado, 1998.
- Salea, Martinus, M. Salea, W., S. Kalatiku, K., Tangoy, P., and M.F. Mottoh, *Structure Bahasa Tonsawang*, Pusat Penbinaan dan Pengembangan Bahasa", Department Pendidikan dan Kebudayaan, 1982.
- Salea-Warouw, Martha, *Kamus Dwibahasa Manado Indonesia, Bagian Pertama, Fakultas Sastra*, Universitas Sam Ratulangi, 1976.
- ... , *Penelitian Bahasa di Sulawesi Utara*.

トンバトウ郡, トンサワン村におけるトンサワン語の選択

- Laporan Penelitian, Untuk Proyek Penelitian Bahasa dan Daerah Sulawesi Utara*, Departmen Pendidikan dan Kebudayaan Manado, 1977.
- Sneddon, J. N., *Proto-Minahasan: Phonology, Morphology and Wordlist*, Department of Linguistics, Research School of Pacific Studies, The Australian National University, 1978.
- Noorduyn, J., *A Critical Survey of Studies on the Languages of Sulawesi*, KITLV Press, 1999.
- Silangen- Sumampow, E.W., G.Y.J. Manoppo-Watupongoh, Th. Rombepayun-Pratasik, S. Kalatiku-Kaunang, F. Sumayku, and P. Nebath, *Penelitian Bahasa dan Sastra Indonesia dan Daerah Sulawesi Utara*, Departmen Pendidikan dan Kebudayaan Manado”, 1976/1977.
- Tallei, *Fungsi Bahasa Tonsea dan Bahasa Melayu Manado bagi para Orang Tua di Tonsea*, IKIP Manado, 1976.
- ... , *Bahasa Melayu Manado sebagai “Lingua Franca” di Sulawesi Utara*”, IKIP Manado, Preliminary Research, 1995.
- ... , *Aspect dalam Bahasa Melayu Manado*, IKIP Manado, Field Research, 1998a.
- ... , *Modalitas dalam Bahasa Melayu Manado*, IKIP Manado, Field Research, 1998b.
- Wallace, A. Russel, *The Malay Archipelago*. (First published in 1896 by Macmillan & Company, London) Oxford University Press, 1989.

参考資料

Questionnaire: Bahasa Melayu Manado RR
(Edited by Tallei/ Hirabayashi)

Tanggal:

Face Sheet

- Kelurahan: Kecamatan..... Kotamadya.....
1. Nama: 2. Umur:
 3. Jenis Kelamin: 1. L. 2. p
 4. Pendidikan:
 1. SD 2. SLTP 3. SLTA 4. Sarjana
 5. Status perkawinan:
 1. belum kawin 2. sudah kawin
 6. Pekerjaan:
 1. pegawai 2. wiraswasta/pedagang
 3. pekerja harian 4. ibu rumah tangga
 5. pelayan toko 6. pembantu rumah tangga

7. pelajar 8. pengajar
9. lain-lain. sebutkan (.....)
7. Tempat tinggal sekarang:
 1. di kota Manado 2. di luar Minahasa
8. Waktu kecil Anda tinggal dimana?
 1. di desa 2. di Manado
 3. di luar Minahasa:
9. Apakah Anda pernah tinggal di luar daerah?
 1. tidak pernah
 2. pernah. kurang dari satu tahun (di.....)
 3. pernah. satu tahun atau lebih:tahun di.....

Questions

1. Bahasa apakah yang paling Anda kuasai?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia 4.
2. Bahasa apakah yang Anda pakai sehari-hari kalau berbicara dengan kakek/nenek sendiri dalam lingkungan keluarga?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasa..... dan Bahasa.....
3. Bahasa apakah yang Anda pakai sehari-hari kalau berbicara dengan orang tua sendiri dalam lingkungan keluarga?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasa..... dan Bahasa.....
4. Bahasa apakah yang Anda pakai sehari-hari kalau berbicara dengan adik/kakak di rumah Anda?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
5. Bahasa apakah yang Anda pakai di rumah kalau bercakap-cakap dengan istri/suami Anda?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
6. Bahasa apakah yang Anda pakai di rumah kalau berbicara dengan mertua?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado

3. Bahasa Indonesia
4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
7. Bahasa apakah yang Anda pakai di rumah kalau berbicara dengan menantu?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
8. Bahasa apakah yang Anda pakai sehari-hari kalau bertemu dan berbicara dengan orang yang umurnya lebih muda dari Anda?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
9. Bahasa apakah yang Anda pakai sehari-hari kalau berbicara dengan teman-teman akrab Anda?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
10. Bahasa apakah yang Anda pakai kalau berbicara dengan orang yang sudah berusia lanjut? (sekitar umur 60 tahun)
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
11. Bahasa apakah yang Anda pakai kalau berbicara dengan orang Anda tidak kenal?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
12. Bahasa apakah yang Anda pakai kalau berbicara dengan teman-teman di tempat ibadah/kumpulan/pesta/kedukaan sebelum acara dimulai?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
13. Bahasa apakah yang Anda pakai kalau berbicara dengan pimpinan acara Evangelisasi/kumpulan/rapat yang sedang memimpin acara?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
14. Bahasa apakah yang Anda pakai kalau berurusan dengan petugas kantor yang sedang bertugas di kantor?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
15. Bahasa apakah yang Anda pakai kalau Anda berkelakar/berkata yang lucu-lucu?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
16. Bahasa apakah yang Anda pakai kalau sedang serius membicarakan sesuatu yang penting?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara bahasadan Bahasa.....
17. Bahasa apakah yang Anda pakai kalau membujuk anak kecil yang belum tahu berbicara?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara bahasadan Bahasa.....
18. Bahasa apakah yang Anda pakai kalau Anda sedang marah-marah?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
19. Bahasa apakah yang Anda pakai kalau sedang bersungut-sungut (bafeto)?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
20. Bahasa apakah yang Anda pakai kalau sedang berdoa sendiri?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
21. Bahasa apakah yang Anda pakai kalau menghitung uang atau menjumlahkan benda lainnya?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia

トンバトウ郡, トンサワン村におけるトンサワン語の選択

4. campuran antara Bahasa dan Bahasa.....
22. Bahasa apakah yang Anda pakai kalau berbelanja di pasar?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....
23. Bahasa apakah yang Anda pakai kalau berbelanja di toko?
 1. Bahasa daerah Anda
 2. Bahasa Melayu Manado
 3. Bahasa Indonesia
 4. campuran antara Bahasadan Bahasa.....